チは *T. felleus* (Fr.) Karst. のために残すのが適当であろう。本州に広く分布する。

127) **ツブエノウラベニイグチ** (新種)。小形ないし中形の種類で，茎には赤色小鱗片が点在し，孔口は赤色，かさの表皮はときに裂けて鱗片状となり，胞子は卵形～楕円形である。大津市石山千町，同市石山寺辺町，滋賀県瀬田町のアカマツ林，ことにコナラ属の樹下に発生。

128) **コヨヘイジ** (小与平治，新品種)。欧州産の *R. nauseosa* (Secr.) Fr. は針葉樹林に発生するものであるが，本菌は広葉樹下に発生する。形態的にはほとんど区別できないので，*R. nauseosa* の1品種と考える。京都大学植物園および大津市石山千町，コナラ属の樹下で採集。

□橋木　保：**日本のスミレ** A5, 原色図 8, 凸版と写真版 140, 本文 206 pp. March 15, 1967 誠文堂新光社，¥1,000。

自他ともにスミレにつかれているという著者多年の蓄積をまとめられたもので，本文に加えてスミレ類に関係あるいろいろなことどもをつけ加えてある。巻末につけてある「索引をかねた学名整理表」12 頁は，異なる著者等が別々に発表した学名を整理した便利なもので，スミレの名彙としての役目をも果している。本書中には前川文夫教授の関与された部分もあり，また，植物栽培の達人である鈴木吉五郎氏の「スミレを作る」という栽培の秘法の一端をもらした項もある。(久内清孝)

○ホザキイチヨウラン (水島正美) Masami MIZUSHIMA: On *Malaxis monophyllos* Sw. in Japan

周亜寒帯要素の本種は，針葉樹林帯に散生し，花の唇弁が上向きに位置すると記されている。このような咲き方をするラン類は少ないので，著しい特徴とすることができる。ところが大体「上向き」2 に対して「下向き」1 の割合で，唇弁が下に位置する花を開く株が見られる。後者は既に D.S. Correll (Native Orchids of N. America p. 260, 1950) によって日本にもあることに言及されており，主として北米東北部に分布するもので，*M. monophyllos* var. *brachypoda* Morris et Eames (=*M. brachypoda* Fern.) と呼ばれる変種に当る。この事実は東亜と北米東部とのフロラの連関に1例を加えるものであり，欧亜大陸に広布する唇弁上位形 (var. *monophylla*) の方が多いことをも考えあわせれば，第三紀末氷期におけるベーリング地域の陸橋的役割を肯定させることになる。台湾の *Microstylis arisanensis* Hay. と命名されたものはホザキイチヨウランであるが，基準標本での唇弁は下向きであり，var. *brachypoda* の方の異名にすべきである。また中国四川省の峨眉山中腹 (VII/1910, 山蔦一海, TI) の個体も下向き形である。これらは var. *brachypoda* の残存分布域なのであろうか。唇弁が花の上側に位置することは，花柄や子房の 360° 回転によるものであり，下側に位置することは，180° ねじ

れたことの結果である。ホザキイチヨウランの場合，腊葉では花柄だけのねじれのように見えた。本種は *Microstylis* として邦書には出ているが，命名規約上 *Malaxis* とせねばならない。此の場合にヤチランを別属に扱うなら *Hammarbya paludosa* O. Kuntze とすべきである。　（東京都立大学牧野標本館）

Malaxis monophyllos Sw. var. *brachypoda* Morris et Eames, with lips lowermost in the flowers and chiefly with northeastern N. American range, occurs in Japan. It has already been stated by D.S. Correll (Native Orchids of N. America 260, 1950) only citing "Japan" in the geographical range of the variety, and in fact the plants I examined in TI and MAK revealed roughly the ratio of 1 (var. *brachypoda*): 2 (var. *monophyllos*) in frequency. Both the varieties are seen in one and the same locality. Moreover the var. *brachypoda* occurs also in Formosa as *Microstylis arisanensis* Hay., and on Mt. Omei, Szechwan prov. of China (Jul. 1910, Yamatsuta, TI). Are they a fossil areas of the Tertiary glaciations?

新刊紹介

□R. Hegnauer: **Chemotaxonomie der Pflanzen**—Eine Übersicht über die Verbreitung und die systematische Bedeutung der Pflanzenstoffe. Band 4: Dicotyledoneae: Daphniphyllaceae-Lythraceae. 1966. SS. 1–551. Birkhäuser, Basel/Stuttgart. sFr. 106.-(邦貨 1 万 600 円) Hegnauer 教授の "Chemotaxonomie" の第 4 巻が昨年出版された。第 1，2 巻は本紹介者により，第 3 巻は久内先生により何れも本誌に紹介された。この第 4 巻では，第 3 巻と同様，科の排列はアルファベット順で，双子葉植物のユズリハ科からミソハギ科までが扱われ，最後に 1965 年 10 月 30 日に完成したと言う 58 頁におよぶ補遺がついている。最近の Chemical plant taxonomy の進歩にともない，分類学のモノグラフにも大分植物成分の説明がとり入れられるようになったが，化学・薬学のバック・ナンバーの揃っていない分類学の教室においては不可欠の好参考書といえよう。　（豊国秀夫）

□Willis, J. C. **A dictionary of the flowering plants plants and ferns,** ed. 7 revised by H.K. Airy Shaw (改版顕花植物及びシダ類名鑑) pp. 1214+53, Cambridge University Press (1966). 属名を確かめるのに手頃であった前版は 1931 年版でそれも追加リストが後にある程度の補充であったが，これは思い切り増補を行ったもので全く面目を一新している。属を ABC 順に，種数と分布地を附記し，注目すべきものには記述もある。(これは前版の通り)。異名も徹底して拾い，その際，完全な異名は＝で，分類の見解によるのは〜で示すのも便利である。園芸的に作られた属間雑種もよくひろってある。科は相当細かく拾い，しかも記載がある。しかしタケ科 Bambusaceae Nakai は記載があり独立しているが，コウヤマキ科 Sciadopityaceae J. Doyle はあっさり異名にされているなどやはり傾きがあるけれども，中井先生が作られた新科が相当に受け入れられているのは改訂者の考え方がわかって興味がある。なお旧版にあった英名や用語解説は尨大になるのを防いで削除されたから，旧版は旧版なりに有効である。$18.50

（前川文夫）